

令和6年度 学校評価

■ そう思う ■ どちらかといえば、そう思う ■ どちらかといえば、そう思わない ■ そう思わない ■ わからない

(1) 主体的に考え行動する力を育む教育の推進		考察
1 豊かな心と健やかな体を育む教育の推進 学校は、豊かな心と健やかな体を育む教育の充実に努めていると思いますか。 (感動・感謝、郷土愛、いのちを大切に作る心、子どもの体力向上、基本的な生活習慣など)	2 自ら学びに向かう力を育む教育の推進 学校は、子どもが自分で考え、自分から取り組む授業づくりに取り組んでいると思いますか。	○【豊かな心と健やかな体を育む教育の推進】生徒・保護者・教職員、肯定的に捉えている割合が8割以上である。今後も今以上に日常からの関わりを大切にしていきたい。○【自ら学びに向かう力を育む教育の推進】教職員は、9割以上が充実していると捉えている。しかし、生徒・保護者は取り組めていない状態であると考えられる。生徒がより主体的に取り組める授業づくりを図ってきたい。
(1) 主体的に考え行動する力を育む教育の推進		
3 社会の形成や持続的発展に主体的に貢献する力を育む教育の推進 学校は、学校生活や地域社会をよりよくするために考えたり、行動したりすることの育成に、取り組んでいると思いますか。(児童会・生徒会活動、学校のきまり直し、地域のよさを伝えたり課題解決したりする取組、ナイスライ(中学校)など)		○【社会の形成や持続的発展に主体的に貢献する力を育む教育の推進】保護者・教職員は、地域・社会での取り組みや学校行事の再開で、保護者や地域の方々に学校に来ていただく機会が増え、連携・協働する雰囲気が高まったことで、数値的にも上昇した要因であると考えられる。生徒は、主体的な地域・社会への取り組みの経験の少なさや新たな連携の仕方を模索していることが、保護者・教職員との意識の差となったと考えられる。
(2) こども一人一人を尊重した教育の推進		
4 5 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実 学校は、子どもが、学習の方法やペースを自分で選んだり決めたりしながら学ぶ授業づくりを行っていると思いますか。		○【個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実】個別最適な学びは、教職員・生徒が実感している割合が低い。つまり、教師主導の授業展開になっていることが課題である。研究部を中心に生徒が自分のペースで学ぶ事ができる授業改善を行い、保護者等にも周知していく必要がある。協働的な学びは、他者と交流し、学ぶ楽しさを実感できる授業づくりを研究・実践したことで、教職員・生徒の数値が高い。引き続き、外部機関とも連携し、研究を推進していきたい。
(2) こども一人一人を尊重した教育の推進		
6 特別支援教育をはじめとする多様な教育的ニーズに対応した支援の充実 学校には、子どもが助けを必要とするときに、先生や友達から支えてもらえる温かな雰囲気があると思いますか。		●【特別支援教育をはじめとする多様な教育的ニーズに対応した支援の充実】各学級・各学年において個に応じた支援に取り組んでいるが、保護者に伝える工夫が足りないのか、評価が十分とは言えない状況にある。各家庭や保護者と連携しより良い支援体制の構築を進めたい。 【インクルーシブ教育の推進】各学年を中心に「交流及び共同学習」に取り組んでいるが、更に相互理解に努めていきたい。共生社会を実感する場面が少ないと捉えている割合が多い。様々な場面での交流や共同学習の機会を増やしていく方法を探していきたい。
7 インクルーシブ教育の推進 学校では、子どもがそれぞれの違いを認め、お互いを尊重し合って共に学び合っていると思いますか。		

(3) 最適な教育環境の整備

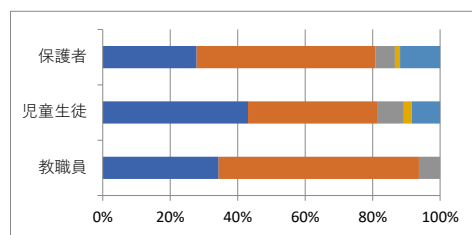
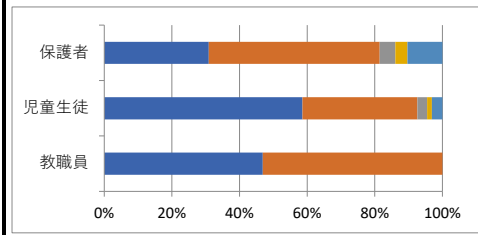
8 安全・安心な園づくりの推進

学校は、こどもの安全を守る環境の整備を進めるとともに、安全教育（生活・交通・防災など）に取り組んでいると思いますか。

9 地域や家庭と連携した教育環境の整備

学校は、地域や家庭の人と協力して、授業や行事などの教育活動を進めていると思いますか。

○【安全・安心な園づくりの推進】生徒の意識が高いことに気づく。これは日頃から様々な機会を捉え、安全教育に取り組んできた成果だと言える。今後も、危機意識を持ち、安全のための行動ができるような働きかけを行っていきたい。
○【地域や家庭と連携した教育環境の整備】学校行事への案内や地域の取り組みに参加する機会が増えたことで、保護者や地域の方々と学校が連携協力する機会が増えたことが、数値的にも高まった要因であると考えられる。今後もより家庭・地域との新たな連携の仕方を模索し、家庭や地域に信頼される学校づくりを推進していきたい。

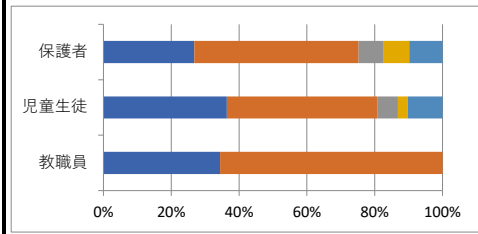


(4) こどものいのちと権利の擁護

10 こどもの最善の利益を守る環境づくり

学校は、こどもの意見を反映させ、こどもの権利を守るとともに、こどもや保護者が相談しやすい学校づくりに取り組んでいると思いますか。

【こどもの最善の利益を守る環境づくり】生徒・教職員は、肯定的に捉えている割合が8割以上であるが、保護者の肯定的な割合が8割を切っている。今後は今以上に日常の関わりを大切にしていきたい。また、教師が気が付かないところでつらい思いをしているかもしれないという危機感を常に持ち、今後も生徒理解や人権教育推進を中心に教育活動全体を通して、生徒たちの心を育んでいきたい。



来年度の具体的な取組について

○教育目標・方針については、誰でもわかりやすいキーワードを中心にまとめ、生徒や保護者に年度当初の生徒集会やPTA総会等で説明するとともに、家庭や地域と連携した取組について理解と協力を得られるようにすることを基盤に、今年度同様、継続して学校・学年便り、ホームページ、PTA新聞、諸団体会合などあらゆる機会を通して情報発信を行う。

○校内研修を中心に、生徒の実態や学力状況を分析し、指導支援の工夫や改善に努める。生徒にとってできた・わかった・協働的な楽しい授業のあり方を模索する。また、基礎学力の定着に向けて、ICTの活用を通して授業改善とセットにして本年度以上に取り組む。また、この事を家庭や地域にも伝え、継続して行えるようにしたい。さらに、人権教育の充実と道徳授業についても実践し、学習形態の工夫や評価の充実を図り生徒一人一人の心を耕していきたい。

小中学校関係者評価

○家庭や地域との連携について、肯定的に捉えている人数の割合が高い。今年度から各行事に保護者や地域の方々をお招きし、情報共有や連携ができるようになったことが要因であると考えられる。今年度は、集団宿泊訓練を4年振りに実施したり、ナイスライ事業の実施日数を拡大して行うことができた。行事等を通して成長した生徒の姿を保護者や地域に発信し、学校を中心とするネットワークの中で成果と課題を共有する場を多く持ちたい。

○こどもの最善の利益を守る環境づくりに対する保護者の評価が8割未満であった。しかし、約10%の保護者が相談や対応方法がわからない結果から、学校からの相談方法の周知をする必要がある。また、各学級・各学年において個に応じた支援に取り組んでいるが、そのことを保護者に伝える工夫が足りかもしれない。今後は教育相談の充実を図り、本人や保護者と十分連携してより良い支援体制の構築を進めていきたい。